



## 新入園の子供たちに

平井信義

### 一、幼稚園という処

お母様の中には、或いは幼稚園の先生の中にも、幼稚園という処を正しく理解していない方々があります。最近頃に幼稚園に入れる親たちが多くなつて、幼児教育への認識が高まつた様にも思えますが、実は小学校に入る準備教育をする場所、而も有名校への試験準備という考え方が、親達の本心であることが次第に赤裸々になつて来ました。幼稚園の中にも、殊更に準備教育していることをうたつたり、うちの幼稚園からは何処何処の小学校へ何人入つたと準備教育の効果であつた様という先生方が時々見受けられる様になりました。しかもこうした傾向は、伝染病の様に蔓延して来ております。そのことは子供にもじきに反映して来ています。小学校の入学試験を間近にした子供たちの顔色が急に悪くなつたり、頭痛や腹痛を訴えたり、中には嘔吐を繰返す子供を診察する機会が多くなりまし

た。

幼稚園は、あくまでも子供の心身の発達を助長するために、適当な環境を与える場処でなくてはなりません。「心身の発達」のために最もよいことを幼稚園に望み、幼稚園もそれを実現させることに努力することを専一に考えて欲しいと思ひます。それにそぐわないことは断乎として排除する、という教育者としての気構えがなくては、子供たちを集めて半日を一緒に暮らすなど、恐ろしいことにさえ感ぜられるのですがいかがでしょう。

子供の「心身の発達」は、決して頭をよくすることが主眼ではありません。頭をよくさせようと努力した結果、性質が歪んでしまつている場合が多々ありますし、体をいためつけていることもしばしばあるのです。こころ、からだを含めて、よい「人格」を養うことが何よりも大切なことと申せましょう。殊に私は自分の立場として、からだのことをもつと重視せよ！と叫びたいのです。からだの発育のために、どれ程のことを幼稚園で考えておられるだろうか、口で

はそれを唱えていても施設とか具体的な案になると、どれ程のものを持つておられるだろうか、——それを考えると、我が国の現況はもつともつと努力を要するものと思われるのです。

新入園の子供たちがやつて来るときに当つて、私共はこの問題をもう二度考え合うこと、及び新入園児の両親たちに、「幼稚園という処」を徹底的に認識させることに努力していただきたいと願つて止みません。

## 二、幼稚園に上る準備

幼稚園に上るといふことは、子供たちにとつて、人生最初の大きな誇りといえます。入園許可の通知を受け取つて、入園式までの期間は、子供の心は緊張そのものといえます。子供の心にも増して、母親の心の緊張は一層強いものです。初めて親の手許をはずす、という不安な気持と共に、いよいよ社会人としての正式な第一歩を踏みだす我が子への祝福とが、交互に母親の胸を襲つて来ます。その結果、つい「幼稚園の生徒さんなのに何です」とか「そんなことをすると幼稚園の先生に叱つてもらいますよ」、「幼稚園へ連れてもらえませんか」などと、幼稚園を引合いに出しての小言。遂には「僕、幼稚園なんか嫌いだ」、「行かなくてもいい」といふ様な言葉を子供に吐かせてしまふ——これはこころの衛生にとつては好ましくないことと申せましよう。幼稚園に対して楽しい夢を持つ様に、協力して欲しいのです。

生活習慣ができていくかどうか、これは大体一人で出来るように準備しておいて欲しいと思います。殊に一人つ子であつたり、家中で大事にされすぎている子供には、こころの自立を養う意味でもぜひ生活習慣即ち食べる、御不浄へいく、着物を着脱する——などには世話を焼かない様、——そうした準備があると、初めは泣いて母親の手を離そうとしない子供でも、その状態から早く脱することが出来ましよう。それが又、入園当初に発生し勝ちな「くせ」——例えば、指なめ、まばたき、どもりなどを防ぐことにもなるのです。

予防注射の類は、一応済ませておくことが大切でしょう。幼稚園が伝染病の媒介所であつてはならない。と口を酸つぱくして申してはおるのですが、こうした汚名にふさわしい出来ごとがしばしば方々で起つていますから、百日咳、ジフテリア、並びに結核に対してB・C・Gは済ませておくべきでしょう。之らの本当の効力は、注射を了えてから一・二ヶ月しないとあらわれて来ませんから、出来るだけ早めにしておくことが大切です。

同時に健康診断をうけておくことは、あとあとの為になります。ツベルクリン反応はもとより、検便してもらい虫卵があるといわれたならば駆虫をしておきましょう。入園式の当日、虫のためにおなか痛んで、皆と足並みが揃わない様なことがあると、子供の心はくちげ易いものです。薬をのませたら十四も廿四も出た、という例にはしばしばぶつかります。その他、心臓に雑音がきこえないか、目にトラホームの様な異常がないか、体重や身長が平均と較べ

てどの程度か、——など自分の子供のからだについて正しい認識を持つ様に努力して欲しいと思います。

智慧の検査も、出来ればしておくがよいでしょう。殊にちえのおかれている子供が、普通の子供の中に入つて無理な保育をうけた結果、性質までがひねられて、保育にも入らない、室にも入らない、という様なことになつては、その子に可哀想だからです。

異常をみつけたならば、癒せるものは入園までに癒しておきましようし、癒せないものならば、先生にお話をし、注意をもつて保育をしてもらう様に、先生に話すことも出来るわけですから。

### 三、入園当初の注意

母親と子供の緊張し切つたところをたくみに誘導して、幼稚園という集団生活の中にたくみに溶け込ませるのは、先生方の技術であり、子供のころの衛生にとつて、いかに大切なことか、——それ故、入園当初の教日間は、子供にとつても母親にとつても、又先生方にとつても、いかに大切な日であるかは、申すまでもありません。

すぐれた先生は、あの混沌とした集団を上手に導いて、まとまりのある姿にします。先生の扱いが、先生の笑顔が、先生の声が、いつの間にか母親や子供の心の緊張を解いてしまうのです。いつの間にか、子供たちは安心して切つて母親の手を離して皆と遊び始め、母親もこの先生にお預けしたら、と肩から荷を下した様に感ずるので、私は毎年、この入園当初の先生方の扱いを見ながら、すぐれた

先生の力に魅入られているのです。

之に反し、信頼のおけないところに子供を送ること程、親の不安は大きいでしょうし、親が不安に思つている場処へ出ていく子供の心は当然疲労し易いものです。このころの疲れはすぐに、子供の表情や動作にあらわれて来ます。からだの疲れを呼び起します。夕方になると、豊にからだを投げ出してごろごろするでしょう。翌朝は幼稚園にいきたくないというでしょう。「折角幼稚園に出したのに」と、いいながら、母親はこういう心配の相談を私共医者のところへ持ち込んでくるのです。

何といつても、入園当初は、子供にとつて新しい生活が俄かにひらけたのです。強そうな子供があそび場や遊具を占領して、手を出していいものやら悪いものやらわかりません。お便所に行きたくなつて、先生に声をかけようとしても、先生は向うを向いていて、声をかけることも出来ません。遂におもらしをしてしまうことにもなります。いろいろ子供のころを暮くことが多い時ですから殊に気の弱い子供には、細かく気を配つて扱いたいものだと思います。

この様に、一番問題となる入園当初の問題は、疲労ということでしょう。子供の疲労が保育中に見えないかは、目の輝きや活動の様子が問題で、その点母親とよく連絡を取りたいものです。元気がどうか、食欲はどうか、睡眠は……などの点を、連絡帳を利用して理解し合いたいものです。

殊に神経質な子供、ひよわな子供については特別な注意が必要で

しよう。特別な注意といつても先生方がおろおろと大事にすることではなく、むしろ逆に周囲の刺戟から守ること、即ち子供の数の多い幼稚園ではそういう子供のグループが出来れば、非常に高い組織を持った幼稚園ということが出来ましよう。最初は出来るだけ環境との摩擦を防ぎながら、しかし次第に鍛錬へと向けてゆけば、神経質の子供も、ひよわな子供も立直ることが出来ます。そうした子供にまつわりついて母親がいろいろ口を出し、それにつられて先生方も腫れ物にさわる様に扱うのが普通ですが、医者の協力を得ながらこうした母親から子供を守つてやることこそ必要になつてくる場合がしばしばです。幼稚園生活を通じて、こうした子供こそ立派に育て上げる、という先生方の決意を促したいと思います。

入園当初は何かと忙しく、落着かなく、そのどさくさにまぎれてはしか、百日咳などの伝染病がはびこり、出鼻をくじかれることがあります。最も注意を要するものは麻疹(はしか)で、今年はその流行の年であり東京では目下猖獗を極めています。この病気の病原体はウイルスですが、伝染力が非常に強いので、一人の病児がまぎれ込んでみると、次々にかかり(潜伏期十一日)遂には幼稚園を閉鎖しなければならぬことさえ起ります。その他、水ぼうそう(水痘)やお多福風邪(流行性耳下腺炎)も流行することがありますから、たえず附近の流行に注意をして、予防と早期発見に努力していただきたいのです。早期発見については、どうか先生方に勉強をしていただきたい。既に「幼児の教育」第四十九巻八号以下(昭和廿五年)に略述しておきました。

殊にこの伝染病の流行は、入園当初の母親に、少し位のことでは休ませたくないという気持がありますから、咳をしていたり、耳のうしろが少し位はれている程度だと、幼稚園に出して寄越しますから、どうぞ朝の視診はお忘れなくお願いいたします。

#### 四、その後の指導

入園後一と月目に体重を測つてみますと、減つている子供が多くあります。勿論ふえている子供もありますが、著しく減つている子供があります。この様な子供は、直ちに医者と連絡して精密検査してもらふことが大切です。ツベルクリン反応が陽転してはいまいか蛔虫が湧いてはいまいか、——こうした検査はどの幼稚園でも五、六月頃に行われるのが原則になっていますが、特に瘦せの目立つた子供は直ちに方法を講じるべきでしょう。

疲れがひどかつたり、食欲が減つたり、頭痛、腹痛を訴える子供も、医学的な精密検査が必要ですが、その他、通園距離が遠すぎないか、幼稚園で元氣な子供に威圧されていないか、或いは家庭でのしつけがきびしすぎないか、例えば幼稚園へいつたら先生にこうするのですよ、ああするのですよ、とやかましますことはないか——こうした心の疲労では、夜のねむりが浅かつたり、寝言が多かつたり、夜驚が始まつたりするものです。こんな子供には、心の負担を軽くしてやること、小言や躰けることを少くし、或いは組をかえるなどの技術が必要でしょう。からだの疲労——それも病気がないのならば、お昼寝は非常に効果があります。幼稚園から帰つてお

昼御飯を終えたなら、三十分から一時間は横になる様に、子供に約束をしましょう。

入園後の一と月間の子供の状態、殊に疲労については返す返す注意をしていて欲しいと思います。一般的にいつてビタミンB<sub>1</sub>の補給は効果があります。

最後にもう一言聞いて頂きたいのは、幼稚園の先生自身の健康の問題です。新入園児を迎え、それを幼稚園生活の中に溶け込ませるのは大変な努力です。あつちで泣き出した、こつちでもらした、こここではものをひつくり返した、と考えただけで目が廻りそうです。

しかも幼児期に於ける人格形成は非常に重大であり、その指導の任に当つているのが幼稚園の先生です。こうした責任を感じて、先生方は、ついつい無理をして体をいためることがしばしばあるのは、本当にお気の毒と思います。初めは気が張つているから左程に感じない疲労も、五月六月と子供たちが落ち付いて来たときに俄かにあらわれて参りますから、どうぞ日頃の健康に注意をなさることでそれには何といつてもよく睡ること。但しそれはだらだらと長くねるのではなく、深くねむる工夫であります。ブドー酒の一杯がきく方もあります。或はねる前の入浴とかマッサージのよい方もあります。兎に角工夫をして頂きたい。又、ビタミン類の補給は充分にして頂きたいと思ひますし、脂肪、蛋白質、などの割合も上手にとつて欲しいのです。

もし、少しでも具合の悪いことがあれば、直ちに健康診断をうけること。私共も御助力したいと願つています。

(27頁から)

仏教では釈迦の出生された、四月八日を花まつりと云つて、当日は花で飾つた花御堂の中に、手を上下にのぼした誕生仏をまつり、甘茶をかける行事をして居りますが、幼児には非常によろこばれるものであります。

釈迦が幼児の最も関心のある象の居る印度で出生された事、その時は丁度四月の花ざかりの春であつた事は、殊に興味深いものであると思ひます。そして王子として、順境の明るい生活をされ、すく／＼と成長された事は幼児ののび／＼とした生活と合致して喜ぶものであります。

仏教が悟りの宗教であり、釈迦の一生が誠に奮闘と云う事が少ないのでありますが、神話的の面も、教理的面から説かれて居る事を充分考へて、幼児に話す場合には充分生かすべき事だと思ひます。そして釈迦が大胆に現実をそのまゝに正視した事を忘れてはならないと思ひます。

### お わ び

一月号、従野先生の「岡山県保育界の今昔」中の、三十三頁、最下段最終行「國富先生は九十余才の」とありますのは、「八十余歳」の誤植であります。

筆者、並びに読者に御迷惑をおかけした事を、深くお詫言いたします。